

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	「わかものたちの多文化共生全国交流会 2010」の開催							
団体名	特定非営利活動法人 浜松 NPO ネットワークセンター							

***** 事業のポイント *****

- 2004年、2005年に浜松で外国ルーツの高校生、大学生を招いて「わかものたちの全国交流会」を開催したが、かつての参加者たちが各地で大学生、社会人として「多文化共生」のリーダーとして活躍していることから、5年ぶりに交流会を開催し、新たなリーダー発掘と、わかものたちのエンパワーメント、全国的なネットワークづくりを図った。
- 関東、東海、関西で多文化共生を行っている団体などに声をかけ、活動に関わっている外国ルーツの大学生、社会人を探し、参加者を募った。浜松はこれまでの事業に関わってきた高校生・大学生を中心に参加者を集めた。
- メーリングリストを立ち上げ、開催前に参加者のメッセージ・プロフィールを流したり、開催後の情報共有を図った。

助成年度 区分	平成 22 年度 地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	1,900 千円
------------	----------------------------	------	----------

事業の内容、成果等

◆ 事業実施の背景

日本における外国人の高校進学率は約 50%であり、大学進学や正規雇用での就職はさらに狭き門となっている。日本社会での成功事例、ロールモデルが身近に見えることが、小中学生の学習意欲の喚起にもつながると考え、高校進学ガイダンス、高校生・大学生のわかものリーダー発掘・育成に取り組んできた。その発展として、全国のわかものリーダーの大学生・社会人を浜松に招聘して、当事者の視点や経験を元に課題を共有し、映像による全国発信を図った。

◆ 事業内容

日時：2010年7月31日(土)11:00 ～ 8月1日(日)16:00

場所：浜松市青少年の家(浜松市中区住吉 4-23-1)

参加者：外国ルーツのわかもの 34名(社会人 11、大学生・専門学校生 14、高校生 8、中学生 1)、スタッフ等 19名

ルーツ：ブラジル 14、ペルー 7、インドネシア 3、アルゼンチン 2、ベトナム 2、中国 2、フィリピン 2、パラグアイ 1、ベトナム 1

地域別：神奈川 7、東京 1、岐阜 3、三重 1、京都 1、奈良 2、大阪 4、兵庫 4、浜松 30

内容：1日目：演劇ワークショップ、自己紹介とゲーム、各地の活動報告、しゃべり場、

2日目：グループディスカッション、全体報告、写真撮影、インタビュー撮影



演劇ワークショップ…体を動かして表現



演劇ワークショップ…初対面の仲間と寸劇をつくる

◆ 参加者の声

「普段は表に出さなかったり、どうせわかってもらえないから…と思って言わないようなことを、この場所では思う存分話して、きいてもらって、共感してもらって…そういう場所の大切さを感じた。」

「今は自分の母語を使う機会がないので、久しぶりにスペイン語で会話できて、自分の中で迷子になっていた部分を見つけた感じ。」

「5年前は自分に自信がなくて、アイデンティティも確立してなくて、話し合いに積極的に参加できなかったけれど、今はいろんなことを経験して、みんなの前で話せることがすごく嬉しい。」

「今まで日本社会の中で暮らしていて、まわりに自分のような人がいなかったの、まわりと違う自分が嫌だったり、孤独を感じたこともあった。みんなに出会って、教わったこと気づいたことがたくさんあった。もっと話をききたかった。」

「自分の中でモヤモヤしていた何かがなくなってすっきりした。これから頑張っていけるパワーをたっぷりもらった！」

「いつもは学校で外国人は私一人だけのアウェーだけど、ここは仲間でいっぱいホームだから！」

「話したいことが自分の中で溢れすぎて、呼吸困難になりかけた。」

◆ 成果

1) 見えてきた移民第二世代の抱える課題

高校・大学に進学した彼らは、移民第二世代の中では非常に優秀で、いろんな意味で恵まれたわかものたちである。困難を越えて、そこまで辿り着くことができた人たちであるが、それでもなお、進学・就職や国籍選択、アイデンティティなどで様々な壁にぶちあたっていることも、共通課題として明確になった。

2) 安心して意見を出せる場の提供

お互いの経験共有から、「悩んでいるのは自分一人じゃない」ことを認識したり、「日本人にも同国人にも親にも言えないことが、ここでは話せる」場になった。今すぐ解決できる解決策は見つけられなくても、そのヒントを見つけたり、壁に立ち向かうパワーの充電になった。

3) 当事者の全国的ネットワークの構築

関東～東海～関西の当事者が顔を合わせて経験共有をすることで、人的なつながりは構築された。今後どのようにそのネットワークを維持・拡大していくかということについては、具体的なしくみまでは作れなかったが、引き続きメーリングリスト等でゆるやかなつながりを持ちながら、お互いの活動や意見などの交流を図っていくことが提案された。今後の交流会開催の要望も多数出たが、自分たちで企画運営にもっと積極的、主体的に関わることも提案された。

その後、2010年、2011年は神奈川の交流会へ、浜松から2名ずつ参加するなど、互いの交流も進んでいる。

4) 支援者の全国的ネットワークの構築

今回は、東京、神奈川、神戸の支援者も参加したことで、各地域の支援状況や課題について情報交換することができた。特に演劇ワークショップと映像づくり・発信について、先進事例を知ることができた。

5) 記録映像集・文集の作成

当日、参加者の声や様子を撮影したものを90分のビデオに編集し、カラー30ページの報告書にまとめた。来られなかった外国ルーツの高校生、大学生や関係者、支援者に後で様子を報告することができた。

6) 浜松のわかものネットワークの強化と、進路支援との連携

今回、浜松からは17名の当事者が参加し、ほかの地域の先輩たちからたくさんの影響を受けた。10月の進学ガイダンスでは「わかものブース」を出展し、交流会のビデオの紹介や、後輩たちからの相談に乗るなどの活動を行った。交流会以後に発掘した新しいメンバーも加わり、わかもの自身による活動が生まれてきている。

7) 演劇ワークショップによるアイスブレイクと身体表現

演劇ワークショップを取り入れた多文化事業は神奈川でも行われているが、今回は浜松市在住のブラジル人演劇家の力を借りることができた。初めて集うわかものたちのアイスブレイクと、言葉に頼らない「体を使った表現」、共同作業による即興演劇を2時間の間に構築することができた。また、演劇家自身のエンパワーメントにもなり、その後もわかものたちと共に活動して「思いを引き出す」「思いを伝える」活動に協力、アドバイスが得られることになった。

8) 日本人の多文化理解

ボランティアスタッフとして参加した日本人にも20代が3名おり、同じ年代の多文化ルーツのわかものたちの姿や意見に刺激を受けていた。「こういう世界があるとは知らなかった」「ぜひまた参加したい」と多文化理解の場になった。



グループディスカッションで経験を共有



各地の活動発表…多文化共生をすすめる青年の会(奈良)

◆ 苦勞した点

- 全国の参加者集めは、数は早いうちに集まったが、初参加の人とは面識がなかったり、相手に趣旨や内容がなかなか伝わらなかったりで、参加の可否を直前まで確定できなかった(この点は、2004年、2005年と変わっていない)。
- 浜松からの参加者も、来ると言って来なかったり、泊まる予定が急遽帰ったりする人も少なからずいた。「面白ければ残るけど、つまらなければ帰る」的な優先順位のつけ方や行動に翻弄された。2度目の参加者は「行けば絶対面白い」「参加者にメリットが大きい」ことがわかって参加率が上がるが、初参加者の優先順位を上げる工夫が必要。

◆ 今後の課題

- 2日間集まったところで、その壁を乗り越えるための明解な解決策は見つけられなかったが、エネルギーの充電には大いになったようだ。今後は参加者が「お膳立てされた場」に乗っかるだけでなく、自分たち自身で場の設定、広報・人集め、助成金の獲得など、企画運営を担う側になっていくことが期待される。
- 開催後は、メーリングリストやSNSで情報共有を図ったが、メーリングリストの投稿は、1年半で58件、うち主催者が23件で、自発的な発信者は数名に留まっている。
- 参加者はそれぞれ活動や交流を行っているが、その情報をメーリングリストに流したり、企画を呼びかけたりは、慣れていないのか、そこまでエネルギーが回らないのか。ネットワークとしての動きが今後の課題。



